

# 施策評価シート

評価実施年度：令和元年度

幹事部局

教育庁

施策の名称	施策Ⅲ－４－４ 文化財の保存・継承と活用
施策の目的	県民が、全国に誇る島根固有の歴史・文化に理解を深め、次の世代へ保存・継承するとともに、魅力ある地域づくりのために、積極的な活用を目指します。
施策の現状 に対する評価	(文化財の保存・継承と活用) ・ 県内の文化財調査が進み、新たな文化財や日本遺産等の指定・登録が着実に進んでおり、それらを活用した取組も進みつつある。一方で、文化財の所有者が文化財を維持・管理していくことが難しくなっている事例がある。 ・ 県内外で実施したシンポジウムや講座、セミナーなどには多くの参加者があり、その反応も良好で島根の文化財などへの興味関心が高まるなどの成果があったが、島根の歴史・文化が豊かで、文化財の活用等がされていると思う県民の割合は横ばい傾向であり、広く県民に対して島根の歴史・文化等への理解や関心を一層深めていくことが課題である。
今後の取組み の方向性	(文化財の保存・継承と活用) ・ 世界遺産や国宝・重要文化財などの歴史文化遺産を良好な状態で次世代に継承するため、保存修理や伝統文化の継承活動などの支援を推進する。 ・ 島根の歴史・文化について関心を深めてもらうため、体系的な調査研究を進め、その成果を展覧会や、県内外でのシンポジウム、講演会などにより、広く情報発信する。 ・ 国内外からの来訪者に島根の歴史・文化の魅力や価値を知ってもらうため、歴史的建造物の復元や先端映像技術を用いた文化財の「見える化」などを進め、古き良き歴史・文化を体感できるような取組を進める。

## 施策に関連する指標の一覧

施策の名称	施策Ⅲ－４－４ 文化財の保存・継承と活用
-------	----------------------

施策の目的達成に向けて取り組む事務事業において設定している主な成果参考指標

項番	施策の成果参考指標	指標名	平成27年度	平成30年度		令和元年度	単位
			実績値	目標値	実績値	目標値	
1	○	島根の歴史・文化が豊かで、文化財の保存・継承と活用がされていると思う人の割合	68.5	70.0	64.5	70.0	%
2		国指定・県指定文化財の総指定件数	790.0	799.0	819.0	802.0	件
3		文化財活用度（文化財の見学活用度数（出雲地域の代表的な史跡等（松江城など8か所）の来訪者数）	714,219.0	700,000.0	600,527.0	700,000.0	人
4		主要施設への入館者数（八雲立つ風土記の丘）	24,572.0	24,000.0	23,607.0	24,000.0	人
5		入館者数（古代出雲歴史博物館）	255,937.0	200,000.0	240,946.0	200,000.0	人
6		講座・シンポジウム・記念行事参加人数（島根の歴史文化活用推進事業）	6,800.0	6,300.0	5,283.0	6,300.0	人
7		子ども塾、いにしえ倶楽部、まちあるきイベントの総参加者数、風土記の丘レンタサイクル等の利用者数	1,633.0	1,750.0	1,854.0	1,800.0	人
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							

事務事業の一覧

施策の名称	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	----------------------

	事務事業の名称	目的 (誰(何)を対象として、どういう状態を目指すのか)	前年度 事業費 (千円)	今年度 事業費 (千円)	所管課名
1	指定文化財等保護事務	県民及び文化財所有者を対象として、県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるようにする。	3,464	4,289	文化財課
2	歴史遺産保存整備事業	県民、文化財所有者及び保持団体を対象として、文化財の滅失や損壊を防ぎ、将来へ確実に継承していく。	101,069	127,914	文化財課
3	八雲立つ風土記の丘事業	県民及び県外からの来訪者を対象として、風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。	61,163	61,744	文化財課
4	古墳の丘古曾志公園事業	県民及び県外からの来訪者を対象として、古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。	6,131	6,246	文化財課
5	古代出雲歴史博物館管理運営事業	鳥根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に鳥根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。	363,321	357,533	文化財課
6	埋蔵文化財保護事務	県民(開発事業者)を対象として、開発にあたり貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な調整がとられるようにする。	5,581	27,225	文化財課
7	文化財活用事業	子供から高齢者まで幅広い世代に鳥根県の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思ふ心を醸成し、県民の心の豊かさの向上に寄与する。	3,177	3,214	文化財課
8	埋蔵文化財調査センター事業	開発地域内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにして、情報を県民に還元すると同時に開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い適正な公共事業の促進を図る。	471,784	584,727	文化財課
9	古代文化の郷「出雲」整備事業	県民及び市町村を対象として、出雲部に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう。	21,018	16,027	文化財課
10	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業	県民、国民等を対象として、世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、未来に継承していく。	105,644	128,304	文化財課
11	古代文化研究事業	しまねの豊かな歴史文化の研究成果を情報発信することで、県民に郷土に対する自信と誇りを高めてもらうとともに、県外の人々に鳥根県の魅力を知ってもらう。	28,336	44,844	文化財課
12	鳥根の歴史文化活用推進事業	しまねの豊かな歴史文化を、県民、国民に広め、県民には郷土への自信を培ってもらい、県外の方々にはしまねの歴史文化の素晴らしさを知ってもらう。	107,084	301,026	文化財課
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

名称	指定文化財等保護事務				
目的	誰(何)を対象として	①県民 ②文化財所有者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	県民が郷土への愛着や誇りを持てるよう、文化財を将来にわたって確実に継承し、活用できるようにする。		3,464	4,289
			うち一般財源	3,464	4,289
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・島根県文化財保護審議会の開催</li> <li>・文化財保護法や島根県文化財保護条例等に基づく指定文化財の調査・指定事務及び修理・整備指導</li> <li>・文化財愛護意識醸成のための普及啓発事業や博物館法に基づく博物館の登録事務</li> <li>・銃砲刀剣類取締法に基づく銃砲刀剣類登録事務</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	県指定の候補となる文化財を新たに選定し、調査に着手した				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	国指定・県指定文化財の総指定件数	目標値		793.0	796.0	799.0	802.0
			(取組目標値)					822.0
	式・定義	国指定文化財件数+県指定文化財件数+登録文化財件数+国選択文化財件数	実績値	790.0	791.0	807.0	819.0	
			達成率	-	99.8	101.4	102.6	%
2	指標名		目標値					
			(取組目標値)					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

平成30年度は国指定有形文化財として、上塩冶築山古墳出土品(出雲市)が指定された。また、登録有形文化財として保性館幽泉亭(松江市)、常松家住宅(出雲市)、上野家住宅(出雲市)、酒持田本店(出雲市)が登録された。登録記念物としては糸原氏庭園(奥出雲町)が登録された。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	島根県文化財保護審議会委員や、文化財各分野の専門家と連携し、県内の文化財調査が進み、文化財指定等が着実に進んでいる。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財所有者によっては、指定文化財の将来にわたる維持管理について不安を感じている。</li> <li>・文化財を多く所有する寺社等で、文化財を保存管理していくことが難しくなっている事例がある。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財の保存環境を整えるにあたり、所有者における過重な経済的負担がある。</li> <li>・人口減少や高齢化といった社会構造の変化などにより、寺社の檀家や氏子が減少しているところがある。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化財を修理するための財政支援制度や、保存環境の整った博物館・美術館等の施設への寄託等の手段があることを所有者に向けて提案を行っていく。</li> <li>・県内の優れた文化財のうち未指定のものについて、その価値を調査・研究史新たな指定を目指すことなどにより、島根の歴史・文化の次世代への保存・継承を着実に進めていく。</li> <li>・文化財保護の機運を醸成するため、より積極的な文化財の活用を検討していく。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	----------------------

担当課	文化財課
-----	------

1 事務事業の概要

名称	歴史遺産保存整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県民、文化財所有者、保持団体	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	文化財の滅失や損壊を防ぎ、将来へ確実に継承していく		101,069	127,914
			うち一般財源	85,433	115,128
今年度の取組内容	国及び県指定の文化財のうち、経年による傷みが進んで保存が危ぶまれるものについて、その修理に要する経費の一部を助成する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	市町村と随時情報共有を図り、可能なものについては事業費が大きくなる前に事業が開始できるよう調整を行った。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名 補助要望充足率	目標値		100.0	100.0	100.0	100.0	
		(取組目標値)						
	式・定義 助成採択件数/助成要望件数	実績値	100.0	100.0	100.0	100.0		
		達成率	-	100.0	100.0	100.0	-	%
2	指標名	目標値						
		(取組目標値)						
	式・定義	実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

指定文化財の保存修理状況  
 ○平成30年度で事業が完了したもの 県指定史跡津和野藩校養老館、県指定有形文化財旧周吉外三郡役所庁舎  
 ○継続して事業実施しているもの 重要有形民俗文化財 国宝松江城天守、菅谷たたら山内など  
 ○令和元年度から事業を開始するもの 重要文化財木幡家住宅保存修理事業、重要無形民俗文化財佐陀神能舞殿伝承活用事業

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	津和野藩校養老館など保存修理が終了したものについては、将来へ確実に引き継いでいくことが可能となるとともに、修理後には公開・活用が行われることにより、地域の観光振興等に寄与している。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	文化財所有者が個人の場合、保存修理や維持管理にかかる所有者負担分の確保が難しい場合がある。
	② 上記①(課題)が発生している原因	傷みが進行すると、保存修理にかかる費用が大きくなるため
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	文化財の状況を所有者・地元教育委員会・県・国等と共有し、傷みが進行し事業費が大きくなる前に保存修理事業に取りかかれるよう調整を行い所有者負担の軽減を図るとともに、計画的に事業実施をすることで限られた予算で要望に応えられるようにする。

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

名称	八雲立つ風土記の丘事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの来訪者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	風土記の丘地内の史跡や文化財を通して県内の文化財への興味・関心を高め、文化財を身近なものと感じるようにする。		61,163	61,744
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語パンフレットやホームページ、SNS等を活用した情報発信、史跡音声ガイド端末や電動アシスト自転車による利用促進を図る。</li> <li>・近隣学校及び公民館の行事受け入れ、大・小ささまざまなイベントの開催、魅力的な展覧会を開催する。</li> <li>・展示内容の充実、複数ある施設の維持・管理・運営を確実にやっていくとともに、ガイド養成などによる専門的知識を有した人材の確保など、長期的、計画的な視点に立った運営を行う。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	・松江市内のほか、新たに安来や米子市内の小学校などを対象とした施設利用誘致を実施				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	主要施設への入館者数	目標値		24000.0	24000.0	24000.0	24000.0	人
			(取組目標値)						
	式・定義	八雲立つ風土記の丘展示学習館、山代二子塚土層見学施設、ガイダンス山代の郷の入館者数	実績値	24572.0	23910.0	22819.0	23607.0		
			達成率	-	99.7	95.1	98.4	-	
2	指標名		目標値						
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総入館者数(展示学習館、土層見学施設、ガイダンス山代の郷) 23,607人(前年度比788人増)</li> <li>・企画展開催数 展示学習館(企画展2回、ミニ企画展5回)、ガイダンス山代の郷(ロビー展4回)</li> <li>・普及活動事業として、土器や勾玉などの製作体験教室、風土記の丘教室、風土記植物園での観察会、こどもまつりなどの各種イベントなど、様々な企画を実施</li> </ul>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域団体等と協力して開催した「こどもまつり」(5/5開催)は約2,400人と過去最高の来訪者があった。</li> <li>・親子向けのミニ企画展「きて!みて!さわって!古代の島根パート2」では、3Dプリンターなどの最新技術を活用して復元された埴輪等を展示するなど、文化財への興味、関心を高める取組を行った。</li> <li>・敷地内の植物園について、地元の各種ボランティア団体・個人の協力を得て、草取りや清掃活動を行い、良好な環境を維持できた。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門性・史的価値の高い展示を行い、熱心な来館者もあるが、観光客などにはなじみが薄く、入館者増につながらない。</li> <li>・周辺観光施設との一体的な情報発信が十分でなく、史跡出雲国府跡をはじめとする風土記の丘地内の見学ルートの整備が不十分なため、観光客受入体制が整っていない。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風土記の丘各施設の情報が十分に発信できていない。</li> <li>・観光客受入体制の未整備</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県、市の観光部局や周辺施設と連携し、情報発信のさらなる強化</li> <li>・展示内容や手法の見直しによる入館者(来場者)の満足度向上</li> <li>・にぎわい創出や、良好な施設環境維持を図るため、地域関係者、関係機関とさらなる連携を強化</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	教育庁文化財課
-----	---------

名称	古墳の丘古曾志公園事業				
目的	誰(何)を対象として	県民及び県外からの来訪者	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	古代の文化遺産の保存と活用を図り、県民の古代文化についての理解と認識を深める。		6,131	6,246
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の安全確保のために、施設の適切な維持管理に努める。</li> <li>費用対効果や長寿命化の観点から、良好な利用環境確保のため、設備の修繕に努め、事故を誘発するおそれのある設備、不要な投資を招く可能性のある設備の撤去についても検討する。</li> <li>地元公民館や埋蔵文化財調査センター等の協力を得て、各種イベントの開催や学校等への広報活動を積極的に行い、施設(史跡)への理解を深める。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存イベントに加え、地域の小学校等を対象とした施設利用促進イベントの開催</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	事故発生件数		0.0	0.0	0.0	0.0	件
	式・定義	事故発生件数						
		実績値	0.0	0.0	0.0	0.0		
		達成率	-	-	-	-	-	%
2	指標名							
	式・定義							
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- 指定管理者により園内は良好な環境に保たれているが、建築物・構造物・備品共に老朽化の進行している。
- H30、6月に「島根県立古曾志公園(利用促進)委員会」を開催し、地元自治会と意見交換を行った際、「利用促進に向け、適宜施設の修繕や公園の積極的な情報発信を行ってほしい」等の意見があった。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>野外ステージや階段の修繕等により、適切な維持管理、環境整備を行い、安全に公園を利用できる環境が保たれ、公園内での事故は発生しなかった。</li> <li>地域団体と連携して「古曾志公園の紹介しまね遺跡ガイド」や「平成31年の初日の出を見る集い」等の自主事業や周辺自治会、小・中学校への広報活動により、利用促進を図った。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>建築物や構造物の発錆劣化や機器の故障等、全般的に老朽化が進行</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>開園後25余年を経過</li> <li>経費的な問題で抜本的な修繕が困難</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的な園内の見回りや施設の保守点検により、利用者の安全確保を図る</li> <li>老朽化した個別施設、機器ごとに、安全性や費用対効果をふまえ今後の対応を検討</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	教育庁文化財課
-----	---------

名称	古代出雲歴史博物館管理運営事業				
目的	誰(何)を対象として	古代出雲歴史博物館の利用者及び県内外の人々	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	島根の歴史文化に関する研究成果の発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を発信し、理解してもらう。		うち一般財源	288,015
今年度の取組内容	島根の歴史文化に関する研究成果の情報発信、学習・交流機会の提供により、県内外の方々に島根の歴史文化の魅力を理解してもらうため、以下のような業務を実施。 ・学芸業務：県内外の方々に対して、島根の歴史文化を知ってもらうため、県内の出土品や歴史資料の展示公開及び情報発信を実施する。 ・交流普及業務：県内外の方々に対して、島根の歴史・文化を理解してもらい知ってもらうため、各種講座やイベントなど交流・普及事業を実施する。 ・広報・管理業務（指定管理）：県内外の方々に対して、郷土の歴史・文化を発信する重要な拠点施設になることを目的に、指定管理者に委託して、効果的な広報及び適切な維持・管理を実施する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	2020年1月から3月に県外で特別展「出雲と大和」を開催するため、展示、保存管理する文化財が館内に少なくなり、文化財への影響を最小化できるこの時期を捉えて以下のとおりメンテナンスを実施。 ・文化財の展示及び保存上の問題の改善 ・施設・設備の不具合解消 ・研究成果等を踏まえた展示内容の充実				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	入館者数	目標値		220000.0	220000.0	200000.0	200000.0	人
		(取組目標値)							
	式・定義	入館者数	実績値	255,937.0	242,734.0	265,071.0	240,946.0		
			達成率	-	110.4	120.5	120.5	-	%
2	指標名		目標値						
		(取組目標値)							
	式・定義		実績値						
			達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- ・出雲大社「平成の大遷宮」の効果が落ち着いたことで平成27年度以降の入館者数は25万人前後で推移していたが、平成30年度は4月の県西部を震源とする地震や7月の西日本豪雨等の影響もあり、入館者数は25万人を下回った。
- ・普及交流事業として博学連携プログラムを実施しており、学校団体で86校、約4,400名の来館利用があった。
- ・学芸業務の成果として企画展を4回実施した。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観覧後の感想を「大変良かった」、「良かった」とした人が約97%と入館者の満足度が非常に高かった。また「何度も来たい」、「もう一度来たい」とした人が約80%あった。(利用者満足度調査アンケートによる)</li> <li>・相互誘客の取り組みとして出雲大社と歴博を組み合わせたツアーを引き続き実施し、7,206名の参加があった。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲大社大遷宮後、入館者が減少傾向にある。</li> <li>・展示、保存する文化財を適切に管理するための環境が十分でない。</li> <li>・入館者から、展示の説明文字が小さい、説明地図が見えにくい、外国語表記がほしいなど、様々な要望が寄せられている。</li> <li>・最新の情報に基づく展示が十分にできていない。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出雲大社を訪れる観光客の取り込みが十分できていない。</li> <li>・県内からの入館者数の割合が低く、若年層の来館も少ない。</li> <li>・開館から11年を経過し老朽化等による課題が顕在化しているほか、多様な入館者からの要望への対応や、最新の情報などに基いた展示を実現するため、大規模な修繕とそれに要する時間が必要である。</li> <li>・寄託、寄贈資料が増加し、収蔵スペースの不足が生じている。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展「出雲と大和」の開催に併せて大規模メンテナンスを実施。</li> <li>・指定管理者により県外へのセールス活動の強化、海外からの誘客に向けたPRの強化や受け入れ態勢の充実を図る。</li> <li>・地元関係者やマスコミなど地域との連携を引き続き強化し、地域に向けたPRを行う。</li> <li>・常設展に加えて、企画展、特別展等の内容を魅力的かつ充実させ、施設の適切な管理運営を行う。</li> <li>・専門知識を有した人材の確保など、長期的視点に立った運営に努める。</li> <li>・「神門通りおもてなしステーション」と連携し、地元商店街との相互誘客を図る。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

担当課	教育庁文化財課
-----	---------

1 事務事業の概要

名称	埋蔵文化財保護事務				
目的	誰(何)を対象として	県民(開発事業者)	事業費(千円)	前年度実績	今年度計画
	どういふ状態を目指すのか	開発にあたり貴重な文化財が破壊あるいは消失しないよう、計画段階で必要な協議を行い、適切な調整がとられるようにする。		5,581	27,225
			うち一般財源	3,194	14,704
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財を保護するため、埋蔵文化財の予備調査(分布・試掘調査)を実施し、県民及び開発事業者に対して、結果を周知する。</li> <li>重要な埋蔵文化財の保護のため、事業者や調査を実施した市町村教委に対し、開発区域内の遺跡の保存方法等の取り扱いについて協議を行う。</li> <li>適切な埋蔵文化財調査を実施できるようにするため、埋蔵文化財発掘調査を実施する市町村教委に対し、専門職員等による技術的指導を実施する。</li> <li>埋蔵文化財の保護に必要な措置を図るため、一定面積以上の土地を開発しようとする者に対して、文化財保護法に基づき審査を行う。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋蔵文化財包蔵地の把握と情報の追加、更新を進めていくため、GISを定期的に更新する。必要があることから、両者で役割を分担することで作業の効率化を図る。</li> <li>また、実施体制の整備と強化を図るため、埋蔵文化財調査センターと協力してGIS研修を実施するなど、習熟度の向上とシステムの整備を進める。</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	計画段階での協議を経ず着工する開発事業の数	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	
	式・定義	協議なしで着工する開発事業の数	実績値	0.0	0.0	2.0	1.0	
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名	県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数	目標値	11400.0	11420.0	11440.0	11480.0	
	式・定義	県内における周知の埋蔵文化財包蔵地の数	実績値	11370.0	11417.0	11451.0	11480.0	
			達成率	-	100.2	100.3	100.4	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- 周知の埋蔵文化財包蔵地の取り扱いは、周知され定着してきたが、事前協議が適切に行われないまま工事着手される事例が1件発生した。
- 県及び市町村教委が分布調査・試掘調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地を新たに29箇所確認した。
- 島根県では、島根県統合型GISにおいて、島根県遺跡マップの公開を行っており、周知の埋蔵文化財包蔵地の周知に努めた。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>県及び市町村教委が分布調査や試掘調査を実施したことにより、周知の埋蔵文化財包蔵地の把握が進み、埋蔵文化財の保護に有効であった。</li> </ul>	
課題分析	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>県及び市町村教育委員会が実施した分布調査・試掘調査・本発掘調査に基づき、島根県遺跡マップを公開しているが、GIS操作に対する習熟度の問題や、更新データ確認に時間を要すなど、遺跡マップの更新が滞っており、最新情報が十分に反映されているとは言えない状況。</li> <li>開発事業者等が事前の調査や協議を行わずに工事着手する事例が発生している。</li> </ul>
	②	上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県遺跡マップの公開にあたり台帳整理のための人員を確保するなどし、公開作業に取り組んだが、更新については、市町村でも情報の編集が可能なシステムとなっているにもかかわらず、運用にいたっておらず、情報提供を受けた県が更新する状態となっている。</li> <li>市町村の埋蔵文化財担当職員が、事業者等に対しての必要な手続きの周知を十分に行っていないため。</li> </ul>
	③	上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>島根県遺跡マップの市町村も含めた適切な運用に向けた仕組みづくり。</li> <li>周知の埋蔵文化財包蔵地と開発の際に必要な手続き等について、市町村HPやチラシ等による周知の促進。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策 施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用

1 事務事業の概要

担当課 教育庁文化財課

名称		文化財活用事業			
目的	誰(何)を対象として	県民	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	子供から高齢者まで幅広い世代に島根県の歴史文化を学習する機会を積極的に提供し、ふるさとを誇りに思いう心を醸成することで、県民の心に豊かさの向上に寄与する。		3,177	3,214
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>心に残る文化財子ども塾：県内の小中学校及び特別支援学校を対象とした古代体験活動や遺跡見学等の出前授業</li> <li>文化財講座『いにしえ倶楽部』：親子等を対象とした体験活動、一般の方を対象とした座学講座</li> <li>埋蔵文化財調査センター講演会：一般の方を対象に、発掘調査の成果等を情報発信する講演会</li> <li>まちあるきイベント等：県内の史跡等の文化財を題材にした「さんいん史跡日和」、発掘調査現場を一般公開する現地説明会</li> <li>風土記の丘レンタサイクル等：風土記の丘展示学習館及びガイダンス山代の郷での無料レンタサイクル及び音声ガイドの貸出</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>レンタサイクル及び音声ガイドの貸出について、受付での積極的な声かけ等を行い利用者の増加を図る。</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位	
1	指標名	子ども塾、いにしえ倶楽部、まちあるきイベントの総参加者数、風土記の丘レンタサイクル等の利用者数	目標値		1650.0	1700.0	1750.0	1800.0	
			(取組目標値)						
	式・定義	子ども塾・いにしえ倶楽部受講者数+まちあるきイベントの総参加者数+風土記の丘レンタサイクル等の利用者数	実績値	1633.0	1842.0	1801.0	1854.0		
			達成率	—	111.7	106.0	106.0	—	%
2	指標名		目標値						
			(取組目標値)						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など									
<ul style="list-style-type: none"> <li>県内小・中学校及び特別支援学校数：平成29年度318校、平成30年度315校</li> <li>児童・生徒数：平成29年度534,170人、平成30年度53,414人</li> </ul>									

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>継続して実施しており、文化財イベント・講座への参加希望者は定員を上回るものが多くある</li> <li>子ども塾の実施校及び参加者数は平成29年度26校724人から平成30年度28校728人に増加</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちあるきイベント等のうち「さんいん史跡日和」について、県主催プログラムの参加者が少ない。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>「さんいん史跡日和」や各プログラムの魅力が伝わっていない。</li> <li>広報開始時期がプログラム開催日と近く、十分な広報期間が取れていない。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>より効果的に文化財の魅力が伝わるよう、プログラム内容を工夫し、広報誌の内容を見直す。</li> <li>広報開始時期を早めに設定し、多様な広報媒体を利用して情報発信を図る。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	教育庁文化財課
-----	---------

名称		埋蔵文化財調査センター事業					
目的	誰(何)を対象として	県民、公共事業者			事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	開発地域内の埋蔵文化財調査を行いその価値を明らかにして、調査で得た情報を県民に還元すると同時に開発事業と文化財保護との調整を円滑に行い、適正な公共事業の促進を図る。				471,784	584,727
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>遺跡の価値を明らかにし、保存や活用を図るために、国土交通省や県（土木部）等が広域的に行う公共事業予定地の埋蔵文化財調査を実施する。</li> <li>埋蔵文化財関係資料を有効活用するため、埋蔵文化財調査センター施設・設備及び収蔵する遺物や図書等の関係資料を、良好な状態で維持管理する。</li> <li>発掘調査の成果や文化財関連事業に対する理解を深めてもらうために、県民に対し広報等を行う。</li> </ul>						
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関（市町村等）の協力を得つつ、発掘調査体制の整備を図る。</li> <li>国交省や県土木部と密な連絡調整を図り、効率的な調査計画に基づいた調査を行う。</li> <li>専門職の管理職を調整担当にし、迅速かつ円滑な調整が行なう。</li> </ul>						

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	発掘調査が円滑に行われなかった件数	目標値	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
			(取組目標値)					
	式・定義	遅延した発掘調査件数	実績値	0.0	0.0	0.0	0.0	
			達成率	-	-	-	-	%
2	指標名		目標値					
			(取組目標値)					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

公共事業に伴う発掘調査は、開発事業者と調整を図りつつ計画的に実施している。現在、山陰自動車道の事業着手済み区間での発掘調査は、大田静間道路等の一部に残っているが、令和元年度以降は福光浅利道路や松江北道路、国営圃場整備などの事業化も予定されており、発掘調査の増加が見込まれることから、今後も調査量の増加に対応できるように調査体制を維持・整備することが必要となる。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>本発掘調査に先立ち、試掘調査を先行して進め、見込まれる調査量を事前に把握している。</li> <li>発掘調査の成果については、現地説明会やパンフレット作成、講演会などの実施回数を増やすことにより、埋蔵文化財に対する県民の興味関心に資するとともに、より深く地域の歴史文化の解明を求める県民のニーズに応えられるよう努めている。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	埋蔵文化財調査センター全体の業務量が増加し、発掘調査の円滑な実施に苦慮している。
	② 上記①（課題）が発生している原因	山陰自動車道の複数路線の同時的な発掘調査は一部の路線や福光・浅利道路事業が未着手であり、中国電力変電所・送電線事業など今後も複数の事業が着手予定であることにより、本発掘調査及び試掘調査の業務量が増加している。
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで以上に、関係機関との連携を密にし、効果的に調査を実施する必要がある。</li> <li>試掘調査については、圃場整備事業、山陰自動車道の路線計画に基づき、市町村との役割分担を進める必要がある。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	教育庁文化財課
-----	---------

名称	古代文化の郷「出雲」整備事業				
目的	誰(何)を対象として	県民・市町村	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	出雲部に存在する貴重な文化遺産を、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートとして活用してもらう。		21,018	16,027
今年度の取組内容	風土記の丘地内に所在する平成30年度に買上げた「山代二子塚」の追加指定地を2カ年計画で整備する。また、「山代郷北新造院」の追加指定地の整備に向けた測量を行う。これら出雲地域の特色ある史跡等を総合的に整備することにより、野外博物館としてネットワーク化を図り、物語性のある歴史探訪ルートを設定して古代ロマンあふれるゾーンとして活用できるように資する。				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>公有地化した未整備地等においては、当面の活用を図るため最低限の説明板設置やガイドブック作成等を進める一方、政庁域を中心とする出雲国府跡の継続的な発掘調査、調査研究に取り組む。</li> <li>風土記の丘地内や出雲国分寺跡の調査・整備活用に取り組む松江市との連携により、当該地を核とした古代出雲ストーリーを構築するとともに、ストーリーに沿った歴史探訪ルートを設定する。</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	文化財活用度	目標値		700000.0	700000.0	700000.0	
			(取組目標値)					
	式・定義	文化財の見学活用度数(出雲地域の代表的な史跡等(松江城など8か所))の来訪者数	実績値	714219.0	762528.0	686160.0	600527.0	
			達成率	-	109.0	98.1	85.8	- %
2	指標名		目標値					
			(取組目標値)					
	式・定義		実績値					
			達成率	-	-	-	-	- %
<p>「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出雲部の史跡整備及び史跡間のネットワーク化を図る風土記の丘地内整備事業において、その核となる史跡山代二子塚の追加指定及び買上げが行われた。</li> <li>他の史跡と連携した活用を目的とする史跡ガイドブックを市町村と協力して改訂した。</li> <li>ふどきのおか日和2018を開催し、のべ132名が参加した。</li> </ul>								

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>山代二子塚の一部を追加指定・買上げすることによって史跡の保護を図ることができた。</li> <li>出雲国府跡の政庁周辺の発掘調査を実施し、出雲国府跡整備の前提となる遺構の状況や国府中心域の変遷の一端を明らかにすることができた。</li> <li>活用事業としてふどきのおか日和を開催し、風土記の丘地内における歴史探訪ルートガイドのノウハウを蓄積することができた。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>風土記の丘地内の歴史探訪ルートの整備など、史跡を見学するための仕組みづくりと周知の仕方が不十分のため、利用者数が増加しない。</li> </ul>
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡出雲国府跡を核とする風土記の丘地内での各史跡の整備や歴史探訪ルート整備が不十分</li> <li>効果的な情報発信の不足</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>整備に向けての継続的な調査研究をすすめ、その成果を公開する。</li> <li>風土記の丘地内を中心とした古代出雲ストーリーを構築し、史跡間のネットワークを活用した効果的な情報発信</li> <li>公有地化した未整備地等の効果的な活用</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	文化財課世界遺産室
-----	-----------

名称	未来に引き継ぐ石見銀山保全事業				
目的	誰(何)を対象として	県民、国民等	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どうい状態を目指すのか	世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」の価値を高め、未来に継承していく。		105,644	128,304
			うち一般財源	105,644	128,304
今年度の取組内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究を継続実施し、歴史文献調査などの研究成果報告書を刊行して全国の図書館や博物館に配布するとともに、調査研究成果についてインターネット等による発信、パネルの製作と巡回展示を行う。</li> <li>伝統的建造物等について保存事業支援を継続し、文化財の適切な保存・整備を行う。</li> <li>県内向け情報発信を拡充し、従来の講座に加え、石見銀山の価値を照会する子ども向けパネルの製作と巡回展示、ワークショップを実施し認知度向上を図る。県外に向け、東京都及び広島県で講座を開催し認知度向上を図る。</li> <li>多言語ウェブサイトを構築し、大田市や石見銀山世界遺産センターと連携して、インバウンドに関する情報発信体制を拡充する。</li> </ul>				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターネット等を活用した情報発信</li> <li>子ども向けパネルの制作</li> <li>調査研究成果等のパネル巡回展の実施</li> </ul>				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	調査研究・保存整備の実績について、報告書・一般向け講座等により公表した回数	目標値	8.0	9.0	8.0	8.0	
	式・定義	公表した回数	(取組目標値)					
			実績値	10.0	9.0	9.0	8.0	
			達成率	—	112.5	100.0	100.0	— %
2	指標名		目標値					
	式・定義		(取組目標値)					
			実績値					
			達成率	—	—	—	—	— %

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

「世界遺産・石見銀山」の首都圏での認知度は、32.9%（H30年度しまねの観光認知度調査）  
 石見銀山遺跡は、広大な面積と多様な構成資産を持つこともあり、その価値を理解することが難しいと言われている。  
 （石見銀山遺跡の価値等を理解する機会）  
 ○調査研究・・・石造物調査、文献調査、鉱山比較調査等を実施し、研究成果として報告書を刊行。全国の図書館や博物館にて閲覧することができる。  
 ○保存整備・・・老朽化した建造物や伝統的建造物の保存活用に向けた修復を実施。修復後は一般公開している。  
 石見銀山世界遺産センター（現地拠点施設）において、研究成果を展示している。  
 ○情報発信・・・県内外にて関連講座等を開催。各種パンフレットの作成・配布。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究を継続実施し、研究成果として歴史文献調査などの報告書を刊行し、全国の図書館や博物館に配布した。</li> <li>佐鹿山神社や金森家及び伝統的建造物等について、保存事業を支援し、文化財の適切な保存・整備に努めた。</li> <li>県内（第1回益田市・参加者45名、第2回安来市・参加者110名）、県外（第1回広島市・参加者420名・第2回広島市・参加者345名）で講演会を開催し、記録集を刊行。全国の図書館や博物館に配布した。</li> </ul>
課題分析	① 「目的」の達成のため（又は達成した状態を維持するため）に支障となっている点	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界遺産「石見銀山とその文化的景観」について、その価値や魅力が十分に伝わっていない。</li> </ul>
	② 上記①（課題）が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究の成果や、世界遺産としての価値等について、一般の方に対する情報発信が不足している。</li> <li>現地の受入体制の整備（サイン、WiFi設備等）が十分ではない。</li> <li>来訪者が現地にて周遊するための情報提供が十分ではない。</li> </ul>
	③ 上記②（原因）の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究の成果を幅広く伝えるため、報告書の配布に加えインターネット等の活用やパネルの製作・展示を行う。</li> <li>地元大田市と連携、協力し、現地の受入体制の整備（サイン、WiFi設備等）に取り組む。</li> <li>SNSの普及や外国人来訪者の増加に対応した多言語ウェブサイトを構築し情報発信体制を充実させる。</li> <li>来訪前に、現地での案内（ガイド）や周遊コース等の情報が入手が出来るよう、大田市などと連携し、情報発信を充実させる。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策 施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用

1 事務事業の概要

担当課 文化財課

名称	古代文化研究事業				
目的	誰(何)を対象として	県内外の人々	事業費(千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	県内外の人々に、しまねの豊かな歴史文化の研究成果を情報発信することで、県民に郷土に対する自信と誇りを高めてもらおうとともに、県外の人々に島根県の魅力を知ってもらおう。		28,336	44,844
今年度の取組内容	(1) 企画運営委員会 (2) 古代文化基礎研究事業 特色ある島根の歴史文化に関する基礎研究。①考古基礎資料調査研究 ②風土記調査研究 ③中世・近世史料の多角的研究 ④祭礼行事調査研究 (3) 古代文化研究事業(テーマ研究) 基礎研究をもとに、外部研究員を交え更に3年間の研究を行い、歴博で企画展を実施する。 (4) 調査研究成果の情報発信事業 上記の研究成果を刊行物により情報発信。①『古代文化研究』②『しまねの古代文化』③『古代出雲ゼミナール』④テーマ研究報告書 など				
前年度に行った評価を踏まえて見直した点	(1) 企画運営委員会の実施に際し、委員の参加率向上、また、委員からの指摘事項の改善に対応しやすいよう、第1回委員会実施時期を11月から9月に繰り上げた(H30年より実施)。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名 公表された調査研究成果物の件数	目標値		17.0	17.0	17.0	17.0	
	式・定義	(取組目標値)						
		実績値	17.0	18.0	17.0	17.0		
		達成率	-	105.9	100.0	100.0	-	%
2	指標名	目標値						
	式・定義	(取組目標値)						
		実績値						
		達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

(3) 古代文化研究事業(テーマ研究)は、毎年2本を新規に開始し3年間研究を実施する。4年目には、研究報告書の刊行と研究の内容を元にした企画展を古代出雲歴史博物館で実施している。

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	テーマ研究の終了後、古代出雲歴史博物館での企画展実施がスムーズに行われていなかったため、テーマ研究最終年度の3年目から、古代出雲歴史博物館で展覧会実施に向けての連絡会議(3T会議…展覧会の内容検討会議。顧客(ターゲット)・時宜(タイムリネス)・目玉商品(トップオブセールス)を中心に検討)を実施するようになった。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	テーマ研究の主担当者が、古代出雲歴史博物館に異動して企画展の主担当者となると、大きな負担が発生して、スムーズに企画展が実施できていない。
	② 上記①(課題)が発生している原因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ研究3年目からの企画展準備では、準備期間が短い。</li> <li>・テーマ研究の主担当者が、博物館展示業務に不慣れである。</li> <li>・古代出雲歴史博物館からのサポート体制も不十分である。</li> </ul>
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマ研究開始3年目からではなく、2年目から企画会実施に向けての3T会議を古代出雲歴史博物館と調整して開催する。</li> <li>・企画展開催実務習得のため、テーマ研究の担当研究員が他の展覧会の作業に参加できるよう早めに古代出雲歴史博物館と調整し、実務参加を定例化する。</li> <li>・古代出雲歴史博物館側でも、将来の企画展の副担当者をテーマ研究2年目には決定し、テーマ研究の主担当者をサポートさせる。</li> </ul>

事務事業評価シート 評価実施年度： 令和元年度

上位の施策	施策Ⅲ-4-4 文化財の保存・継承と活用
-------	-------------------------

1 事務事業の概要

担当課	文化財課
-----	------

名称	島根の歴史文化活用推進事業				
目的	誰(何)を対象として	県民、国民等	事業費 (千円)	前年度実績	今年度計画
	どういう状態を目指すのか	しまねの豊かな歴史文化を、県民、国民に広め、県民には郷土への自信を培ってもらい、県外の方々にはしまねの歴史文化の素晴らしさを知ってもらおう。		107,084	301,026
今年度の取組内容	特別展「出雲と大和」開催、出雲国風土記シンポジウム(東京)開催、東京連続講座開催、出雲国風土記連続講座(松江)開催、隠岐国巡回講座・ワークショップ開催、石見国巡回講座・ワークショップ開催、古代歴史文化賞実施、古代歴史文化に関する共同調査研究実施、日本遺産講座(東京、広島)開催など				
前年度に行った評価を踏まえて見直したこと	出雲国風土記シンポジウム(東京)及び東京連続講座を特別展「出雲と大和」のイベントと位置付け、共通のテーマで実施することにより、首都圏におけるより効果的な情報発信、認知度の拡大を図る。				

2 成果参考指標等の状況

成果参考指標		年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	単位
1	指標名	講座・シンポジウム・記念行事参加人数	目標値		6300.0	6300.0	6300.0	6300.0
		(取組目標値)						
	式・定義	講座・シンポジウム・記念行事参加人数	実績値	6800.0	5626.0	6408.0	5283.0	
		達成率	-	89.4	101.8	83.9	-	%
2	指標名		目標値					
		(取組目標値)						
	式・定義		実績値					
		達成率	-	-	-	-	-	%

「成果参考指標」の他に参考とすべきデータや客観的事実など

- 平成30年度は講座、イベント等の開催件数が少なかったことや開催日当日の天候などが影響し、全体の参加人数は昨年よりも減少した。
- 古代歴史文化に関する共同調査研究では、例年東京で実施している講演会に代えて、14県に関わる玉類の展覧会『玉 ー古代を彩る至宝ー』を2館で開催した。  
(江戸東京博物館(東京)(観覧者 60,234名)、九州国立博物館(福岡)(観覧者 49,351名))
- また、それに併せ、玉類に係る共同調査研究の成果を一般向けにわかりやすくまとめた成果図書を刊行した。
- 観光振興課及び大阪事務所と連携し、大阪でしまねの歴史文化をテーマとした島根学講座を開催した。(3回 計720名参加)

3 「取組内容」に対する評価

成果	「目的」の達成に向けた取組みによる改善状況	県内外における講座やイベント、他県との連携事業などを通じ、歴史文化の活用・情報発信に継続して取り組んだ。特に、14県で実施した展覧会では、延べ11万人の観覧者においていただき、多くの方々に古代歴史文化の魅力に触れていただいた。
課題分析	① 「目的」の達成のため(又は達成した状態を維持するため)に支障となっている点	県内外における講座やイベントには、毎年多くの方々に参加していただいているが、全国でのしまねの歴史文化に係る認知度はまだ充分とは言えない。
	② 上記①(課題)が発生している原因	島根県単独の取り組みのみでは全国へ十分に浸透させることが困難である。
	③ 上記②(原因)の解決・改善に向けた見直し等の方向性	・東京オリンピック・パラリンピックが開催されるとともに、日本書紀編纂1,300年の節目である令和2年の1月から、奈良県と共同で東京国立博物館において特別展「出雲と大和」を開催することにより、しまねの歴史文化に係るより効果的な情報発信、認知度向上を図る。 ・古代歴史文化賞では、共同主催者である他の4県に対し、地元マスコミへの周知や地元書店でのブックフェア開催の働きかけを積極的に行うよう呼びかける。 ・14県による共同調査研究では、新たな研究テーマである「弥生・古墳時代の刀剣類」に連携して取り組み、全国へ向けた情報発信を積極的に行う。 ・引き続き、県内外での講座やイベントを開催し、多くの方々に参加いただくことで、しまねの歴史文化の浸透を図る。